

ママさんボウラー 悲願の初V



蟹江町のプロボウリング選手、丹羽由香梨さん(三〇)が、女子プロツアーの大会で初優勝した。一児の子育てをしながら、ボウリング場での仕事と競技を両立する「ママさんボウラー」。プロ入りして二十年、遅咲きの花が開いた。

(伊勢村優樹)

大会は三月下旬に千葉県 勝トーナメントで競った。OMENS ALL ST 昨年同大会では四位だった。AR GAME 202 った丹羽さん。「今年こそ1」。日本ランキング上位は優勝を」と気合を入れ、者二十四人が出場し、総当 予選を四位で通過した。決

プロ入り20年、蟹江の丹羽さん

女子プロボウラーのツアー大会で優勝した丹羽さん＝蟹江町のアソビックスかにえて

勝では、最終の優勝決定戦で十回のストライクを出した。277という二日間計二十八ゲームで最高スコアを記録し、予選一位の選手に60点差をつけた。

豊明市出身の丹羽さんが本格的に競技を始めたのは小学校二年生の時。家族で遊んでいたボウリング場でプロから誘われた。清林館高ボウリング部時代には国体の舞台を踏み、十九歳でプロテストに合格した。

就職後は、アソビックスかにえのボウリング場でフロント業務をこなしながら、師匠の指導を受け地道に練習。各地で毎月のように開かれるプロツアーの大会に出る。当初は年間で半分ほどしか予選を通過できなかったというが産後、

「力が抜けてフォームが良くなるなど、プランクが逆に良かった」と、ほとんど決勝にいけるようになった。

練習から気持ちの持ちよるや取り組み方も変わり、

短い時間で最大の効果を求めるように。遠征時には子どもを親に預けなければならぬ。母に会えない寂しさを必死にこらえる子のことと思うと「結果を出す責任感も増した」という。

成績は上がったが、準優勝止まりが続いていた。ようやくタイトルを手にし、「今まで優勝が目標だったから、肩の荷が下りた感じ。応援してくれた両親やお客さんらに恩返しができる」と満面の笑み。帰宅すると、小学二年の娘から「一位おめでとう。これからも応援しているよ」と祝福の手紙をもらい、感極まった。

「大変な中でも頑張れるのは家族の協力のおかげ」と感謝する。家事や育児に専念しようか悩むこともあるが、「両立できる今のチャンスは逃したくない。まずは早く二勝目を挙げたい」と、開幕したばかりのツアーでの快進撃を狙う。